

# 令和6年度 小金井市立南小学校 授業改善推進プラン

## 1 授業改善の方針

- 基礎学力の向上を図る。(ICTの効果的な活用)
- 「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを図る。(ICTの効果的な活用)

## 2 児童の現状分析

### (1) 全国学力・学習状況調査

国語	○「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、全国平均・都平均を大きく上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関しては、平均より10ポイント程度上である。しかし、全体的に記述式の問題の点数が低い。自分の考えや感想を文章で書く学習が必要である。
算数	○どの領域も全国平均・都平均を大きく上回っている。しかし、国語と同様に記述式の問題の点数が低い。

### (2) 児童・保護者・教職員アンケート

1年生	○学習活動に前向きに取り組む児童が多い一方で、就学前までの経験がそれぞれに偏りがある部分も見られる。物事を正確に理解し、表現することやより多くの経験が必要な児童もいる。
2年生	○意欲的な児童は多いものの、読み書きや文章読解、計算や量感覚など基礎基本の学力に課題がある。
3年生	○新しい学習に意欲的な児童が多い一方で、個々の中で得意な教科、苦手な教科がはっきりし始めている。
4年生	○学力差が大きい自然や生き物、社会的事象に興味をもっている児童が多く、ICTを使って調べたり擬似的に体験したりすることにも意欲的である。対話を通して学びの深まりを実感できる子はまだ少ない。
5年生	○学習課題に対して意欲的に取り組むことができる。しかし、物事を多角的・多面的に捉え、自分の考えを形成することには課題がある。
6年生	○学習に対して前向きな児童が多く、課された課題には意欲的に取り組むことができる。物事を多角的・多面的に捉えることもできるようになってきた。一方で、考えを形成し、筋道の通った文章にして書くことに、課題がある。

## 3 各教科等における授業改善の視点

国語	低学年	○読み聞かせ、読書、音読などの学習活動を重視し、様々な文章に触れる機会を充実させる。 ○日記や手紙、簡単な物語をつくるなどの学習活動に取り組むことによって、自分の思いや考えを表現する力を育てる。また、感想を共有など、対話的な学習を多く設定していく。
	中学年	○必然性や興味をもてるゴールを設定し、ヒントとなる言葉や、キーワードを意識させて主体的に読み取れるようにする。 ○ICT機器を用いた活動を取り入れ、自分の意見や考えを書く機会を設定し、表現力を育てる。また、互いの意見や考えを共有することで自分の学習に生かすようにする。
	高学年	○単元の中で、対話的な学習を設定し、共有することで、考えを広げたり深めたりできるようにする。 ○筋道の通った文章を書けるようにするために、書く前に文章全体の構成や展開を考える時間を設定する。書き上げたものを互いに共有し合い、読み手が理解しやすいような書き方のコツを見付け、活用していく機会を作っていく。
社会	中学年	○資料から分かることや考えられることを発表し合う時間を設け、学習していく問題をクラス全体で共有できるようにする。 ○地域の人々の協力や努力を理解し、自分たちにできることを考え、地域の一員としての意識をもたせる。
	高学年	○調べる際に視点を明確にし、資料から必要な情報を読み取る力を育てる。 ○ICT機器を有効に用いて適切な資料の提示や情報の共有を行い、複数の視点をもちながら社会的事象への考えを広げられるようにする。

算 数	低学年	○体験的な活動やブロックなどの具体物を使ったり、計算練習の時間を設けたりして、学習の基礎・基本となる計算力を身に付けられるようにする。
	中学年	○自力解決の場面では、関係する既習を想起させて、既習の系統を活かしながら自力解決に向かえるようにする。 ○共有・統合の場面では、デジタル教材や具体物を活用して共有・統合の効率化を図ることで思考を深め合えるようにする。
	高学年	○課題把握、課題解決に向けた見通しや自分の考えをもつことができるように、問い返しや対話の時間を十分にとる。 ○共有、統合の場面では、ICT 機器を活用して、考え方の共有を図るとともに習熟度別に学習を進めることができるようにする。
理 科	中学年	○ICT 機器を活用して実験や観察の様子を記録し、その記録をもとに考察をしたり理解を深められたりするようにする。 ○動画教材等で実験や観察の予想をしたり学習内容を振り返ったりして、理解を深められるようにする。
	高学年	○ICT 機器で、学習の理解を視覚的に補助したり、学び合いのツールとして活用したりする。 ○既習事項や日常生活と関連付けて考えたり、比較して観察や実験をしながら考えを深め理解したりできるようにする。
生 活	低学年	○地域の学習材を生かした活動を重視することによって、自分と地域のつながりについての気付きが生まれるようにする。
音 楽	低学年	○友達と一緒に歌うこと、様々な楽器を触り、合奏することを通して音楽活動をする楽しさを味わえるようにする。
	中学年	○音楽の良さや感じたことを ICT 機器、拡大楽譜など活用し言語化・視覚化し、共有できるようにする。 ○新たに学ぶ単音、短いフレーズ、大切な箇所を全員レ形式、スモールステップで行い定着させる。
	高学年	○音楽の良さや感じたことを ICT 機器、拡大楽譜など活用し言語化・視覚化し、共有できるようにする。 ○新たに学ぶ単音、短いフレーズ、大切な箇所を全員レ形式、スモールステップで行い定着させる。
図 画 工 作	低学年	○身近な題材を用意し、豊かな発想ができるようにするとともに、道具の基本的な使い方を指導し、活用できる場と時間を設定する。
	中学年	○一人ひとりの作品の価値を理解し自分と友達の作品を大切にすることを養う。 ○段階を踏んで完成する工作を経験し、自分の表現を計画的に制作できるようにする。 ○写真撮影など ICT 機器の基本的な活用を体験する。
	高学年	○自分の考えを、自分の方法で表現しようとする。自分の表現と友達の表現の良さを解り、味わうことができる。 ○ICT 機器による適切な情報収集を行い、自分の知識や感性を養うことができるようする。
家 庭	高学年	○調理実習や裁縫などの実践経験を工夫して行い、日常生活に必要な技術を養う。
体 育	低学年	○友達と関わり合ったり、様々な運動遊びを経験したりすることを通して、体を動かすことの楽しさを味わわせる。
	中学年	○ICT 機器を活用し、振り返りの時間に次回の課題を意識させ、全体で共有する時間を設ける。 ○自分やチームの課題に向き合い、解決しようと努力する態度を養う。
	高学年	○ICT 機器を活用して自分の運動動画や模範演技動画を参考にし、明確になった課題について練習を重ね、技能の成長を捉えることができるようにする。
外国語	中学年	○関わり合う活動を通し、友達と楽しみながら外国語に親しむようにする。 ○ゲームや歌などの活動を多く取り入れ、楽しみながら表現に慣れ親しむようにする。
	高学年	○「新しい表し方を知る→活用する→アウトプットし力を高める」を繰り返す。 ○ALT とのやり取りを多く取り入れる。また、授業の最後に学習の振り返りを行い、学習の成果を明確にする。
道 徳	低学年	○場面絵を ICT 機器等で示し、対話を通して道徳的諸価値に迫り、自己の生き方について考えがもてるようにする。
	中学年	○終末の時間で、今後なりたい自分やよりよい生き方について考える時間を十分にとり、道徳的心情・態度を育てる。
	高学年	○事前アンケートや ICT 端末の思考ツールを活用する。

		○展開の中で、考え・議論する時間を設け、多様な視点から語り合うことで、自己のよりよい生き方を考えていけるようにする。
総 合	中学年	○テーマから一人一人が課題を見つけることで、主体的に課題に取り組むことができるようにした。ICT 機器を活用して、資料を探したり、調べたことをまとめたりすることができるようにする。
	高学年	○子どもの「～したい」を大切に単元作り、授業づくりを進める。